

10月1日

天山区共同環境組合を設立

共同での一般廃棄物（ごみ）処理施設の建設と運営を目指し一部事務組合を設立

多久市と小城市が、共同で一般廃棄物処理施設の設置と処理を行うために一部事務組合「天山区共同環境組合」を10月1日に設立し、その設立式を10月24日、多久市役所で行いました。



▲設立式典後に看板を前に“がっちり”握手する横尾俊彦多久市長と江里口秀次小城市長

式典は、佐賀県や両市議会議長・副議長、地元関係者ら30人が参加して行われ、天山区共同環境組合管理者の横尾俊彦多久市長が「これまで両市とも循環型社会の実現を目指して取り組んできました。ごみの処理は市民生活に必要不可欠な施設であり、環境に負担がかからないよう地元や住民の協力・理解を得ながら進めていきます」とあいさつ。佐賀県市町村課熊崎康春課長から「両市の連携と関係者の尽力に敬意を表します」と来賓代表の祝辞がありました。

現在の多久市清掃センターは、平成17年度に炉の改修を行いました。施設稼働後30年以上が経過し、老朽化が進んでいる状況です。また小城市では一般廃棄物処理を行っていた天山区共同塵芥処理場組合が平成21年度に解散し、現在は一般財団法人・佐賀県環境クリーン財団の中間処理施設（クリーンパークさが）で処理

を行っている状況です。両市ともに現状の処理体制を今後も継続していくには課題もあり、加えて循環型社会実現に向けた新たな一般廃棄物処理施設の整備も急務となっていました。

このため、多久市、小城市ではこれまで対策協議を行い、平成25年に多久・小城市地区広域クリーンセンター建設促進協議会を設けました。そして多久市役所内に事務所を設置して協議を重ね、両市による一般廃棄物処理施設の設置、維持管理および運営と一般廃棄物の収集および運搬に関する事務について一部事務組合を設置して共同処理することを決定し、天山区共同環境組合を設立しました。

今後は11月に議会を開催し、12月には「循環型社会形成推進地域計画」を国に提出し、その認可を受けて、さらに具体的に進めていきます。

▼ごみ処理施設建設予定のゆうらく跡地。処理能力1日あたり約50tの処理施設を検討中です。



Message for citizen

温故創新

市長コラム

国際儒学連合会で多久の世界デビュー

市長 横尾俊彦

国際儒学連合会という学術組織があります。世界の儒学研究者等をネットワークして研究学会を催すとともに、孔子の教えを軸に新たな時代の要請に応えうる儒学の可能性を探求・発信すべく、1994年に設立され、5年毎に総会が開かれます。本部は中国北京で、孔子直系子孫の孔徳懋先生、孔垂長先生、多久も毎年お世話になっている漢詩指導の大家・石川忠久先生も名誉顧問です。

その本部から「第5回国際儒学研究大会で日本のスピーカーの1人として発表してほしい」と依頼がありました。9月24日から北京で学会・総会、続けて孔子生誕地・曲阜訪問の日程です。公務があり全参加は難しいと相談し、多久と多久聖廟の世界発信チャンスと捉え参加しました。

風雨の中、北京会場着22時。強風のあとに青空となった天安門広場の人民大会堂での開会式典には習近平国家主席も最後まで参加でした。まさに孔子・儒学に並々ならぬ熱の入れ様です。

公用語は中国語と英語のため、発表も論文提出も英語で挑戦しました。当日は多久の論語教育や多久聖廟について90枚の画像を使って伝えました。各国参加者から「今度日本に行くときは多久を訪れたい」と好評でした。さらに総会採決で世界312人の理事メンバーに加わることとなりました。

今年孔子生誕2565年。儒学の深い教えに学びながら多久を発信していきたいと思えます。すべての皆様に、実りの秋を祈念します。